

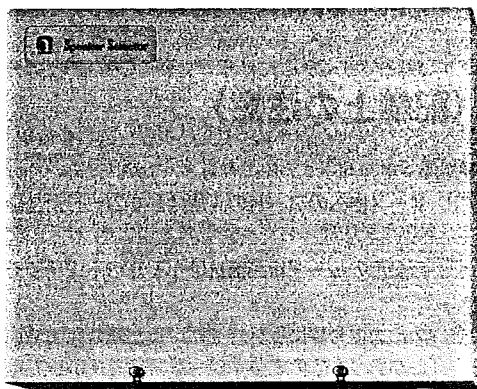


スピーカセレクトタ

このたびはノボルの電話ページング用スピーカセレクトタをお買い上げいただきまことにありがとうございます。

正しい工事をしていただくために必ずこの工事説明書をよくお読みください。

RB-403 工事説明書



〈目次〉

| | |
|----------------|-----|
| 設置上の注意 | 2 |
| 配線上の注意 | 2~3 |
| 工事時の注意 | 3 |
| 上ケースのはずし方と取付け方 | 4 |
| 設置方法 | 5 |
| 主装置の接続方法 | 6 |
| アンプの接続方法 | 7 |
| スピーカの接続方法 | 8 |
| 工事後の確認 | 10 |
| 仕様 | 11 |

〈設置上の注意〉

1. 本機は壁に取付した状態で良好な通風状態が得られるようになっておりますので、必ず壁面に取付してください。
2. 上下面の通風孔は塞がないようにしてください。上下共に10cm以上の空間をあけて、通風を良くしてください。
3. 電話機主装置と放送用アンプの近くに設置してください。
4. 振動のある場所には設置しないでください。
5. 温度の高い所や湿度の高い所には設置しないでください。
6. コンピュータ、コピー機、エアコン等と同じ電源ラインから電源を取らないでください。必ず別ラインから電源を取ってください。

〈配線上の注意〉

1. ケース内へのコードの入線は必ずコード引き込み口のブッシュを通してください。
2. 起動用のループ線路抵抗は1 k Ω 以下にしてください。
3. 入出力信号線に平行線を用いると雑音発生や、ヒューズの断線等の原因となることがありますので必ずシールド線を使用してください。
4. スピーカ線には線路抵抗による音量低下を防ぐためできるだけ太い線（例えば0.75mm²）を使用してください。

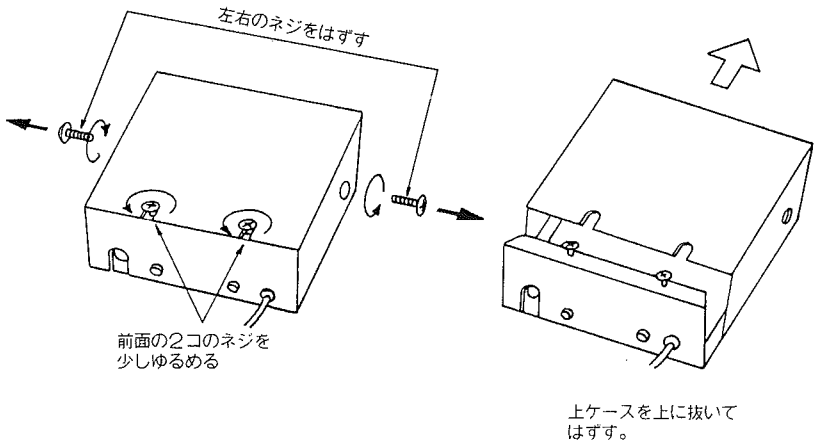
5. 入力信号線は長く延ばさないで2~3m程度にしてください。
6. 入出力信号線をAC電源線やスピーカ線、コンピュータの通信線と平行に配線しないでください。
7. 各系統の出力端子がフリー端子なので圧着端子は不要です。
各端子にネジ取めできる線の本数は 0.75mm^2 で2本までです。
8. 本機のカバーをはずすと上下に8P端子板が2組づつあります。
上側が主装置と接続する端子で、下側がアンプとスピーカに接続する端子です。
9. 各系統の出力端子に接続するコードはシャーシの下側にある○穴を通してケース内に入線してください。

〈工事時の注意〉

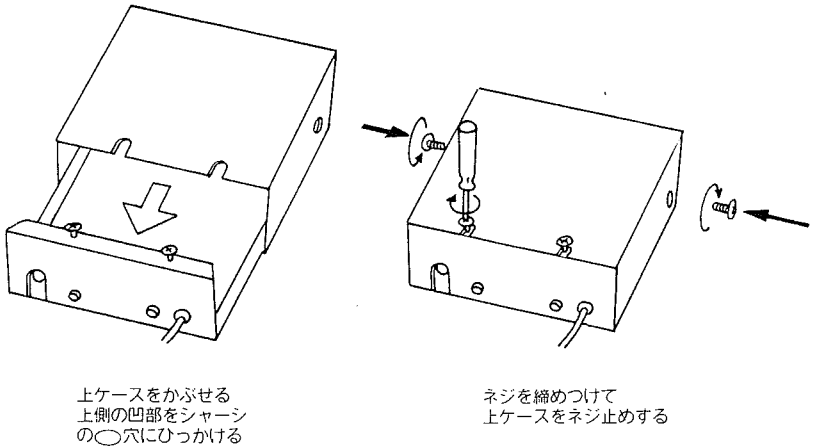
1. 工事中は本機とアンプのACプラグをコンセントから抜いてください。
2. 本機に接続できるスピーカはハイインピーダンス（トランス付）スピーカです。
ローインピーダンス（例、 $4\sim 16\Omega$ ）スピーカは接続できません。
3. 接続した全てのスピーカの入力ワット（W）数の値を加算した合計の値がアンプの出力ワット数より小さいか同じとなるようにしてください。
4. 誤配線やショートのないことを確認してからACプラグをコンセントに接続してください。

〈カバーのはずし方と取付け方〉

はずし方

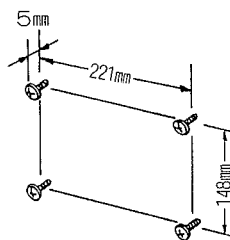


取付け方

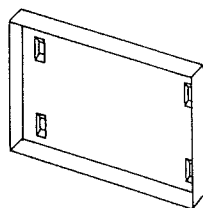


〈設置方法〉

1. 電話機主装置とアンプの近く(2～3m以内が良い)で縦25cm、横35cm程度のスペースを用意します。
2. カバーをはずします。
はずし方は<カバーのはずし方と取付け方>の項を参照してください。
3. 付属の丸木ネジを壁面に首下長さ5mm位までねじ込みます。
(取付寸法を右図に示す。)

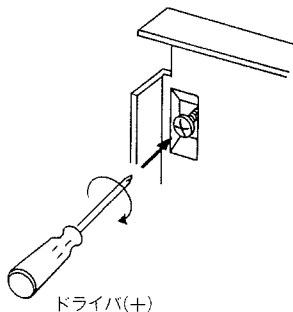


4. 本機のシャーシにあるダルマ穴を丸木ネジにひっかけます。

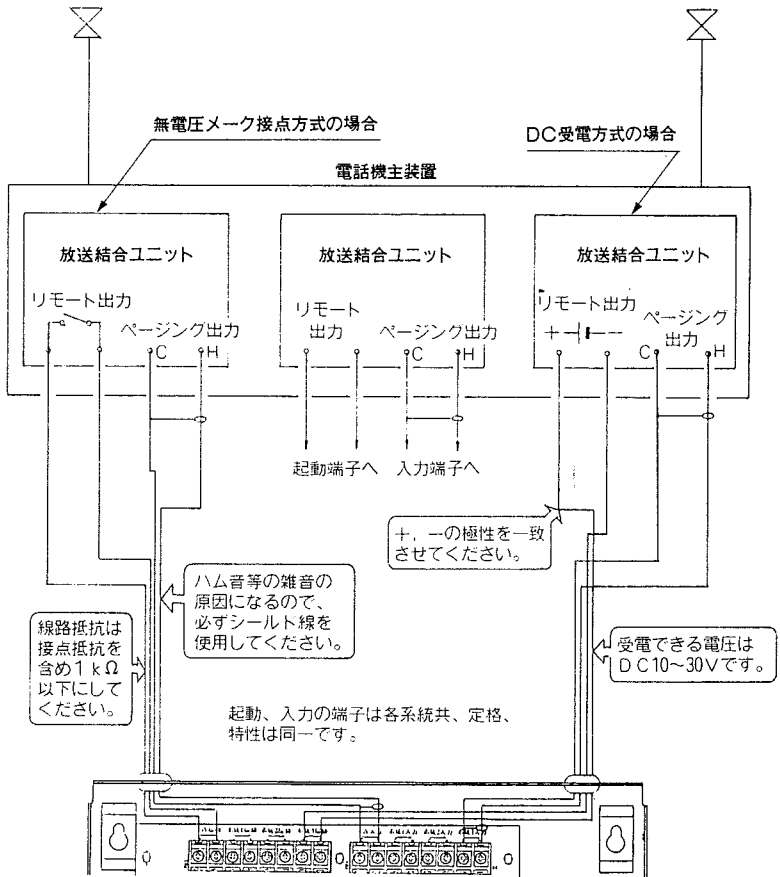


5. 丸木ネジをさらにねじ込んで固定します。
6. 最後に確実に固定できていることを確認します。

(注) 壁面が石膏ボードや板厚の薄い合板等でできている場合は壁を補強してから取付工事を行なってください。



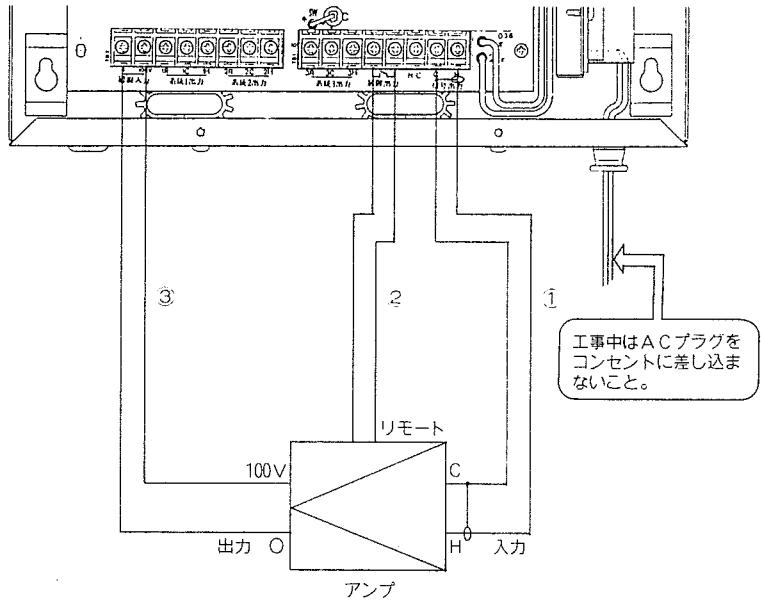
〈主装置の接続方法〉



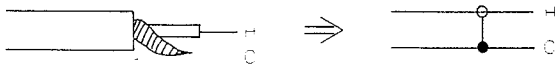
(注) 系統1,2についても同様に接続します。

〈アンプの接続方法〉

- ①. 本機の信号出力端子とアンプの入力端子をシールド線を用いて接続してください。
- ②. 本機の制御出力端子とアンプのリモート入力端子を接続してください。極性はありません。接点定格以内であればAC、DCのどちらでも制御できます。
- ③. 本機の回線入力端子とアンプの出力端子(100Vライン)を接続してください。極性を一致させてください。



注：シールド線の表示例



〈スピーカの接続方法〉

スピーカの配線のしかたには三線式と二線式の2つの方法があります。

1. 三線式配線

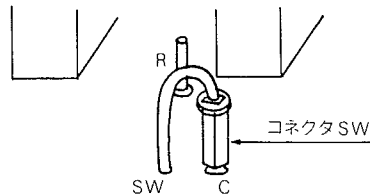
必要に応じてスピーカごとに音量を調節したい場合に用いる配線方法です。

1. 1 コネクタSWを[C]に接続しているとき

一斉起動は系統1～3を同時起動することと同じです。

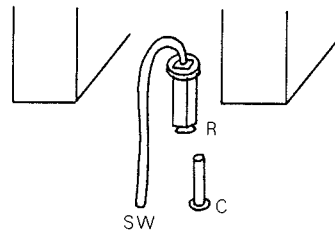
各スピーカごとのATTでセットされた音量でスピーカが鳴ります。

ATTを [切] にしているスピーカは鳴りません。



1. 2 コネクタSWを[R]に接続しているとき

一斉起動するとATTの状態とは無関係に、ATTを最大音量位置にセットしたときと同じ音量でスピーカが鳴ります。

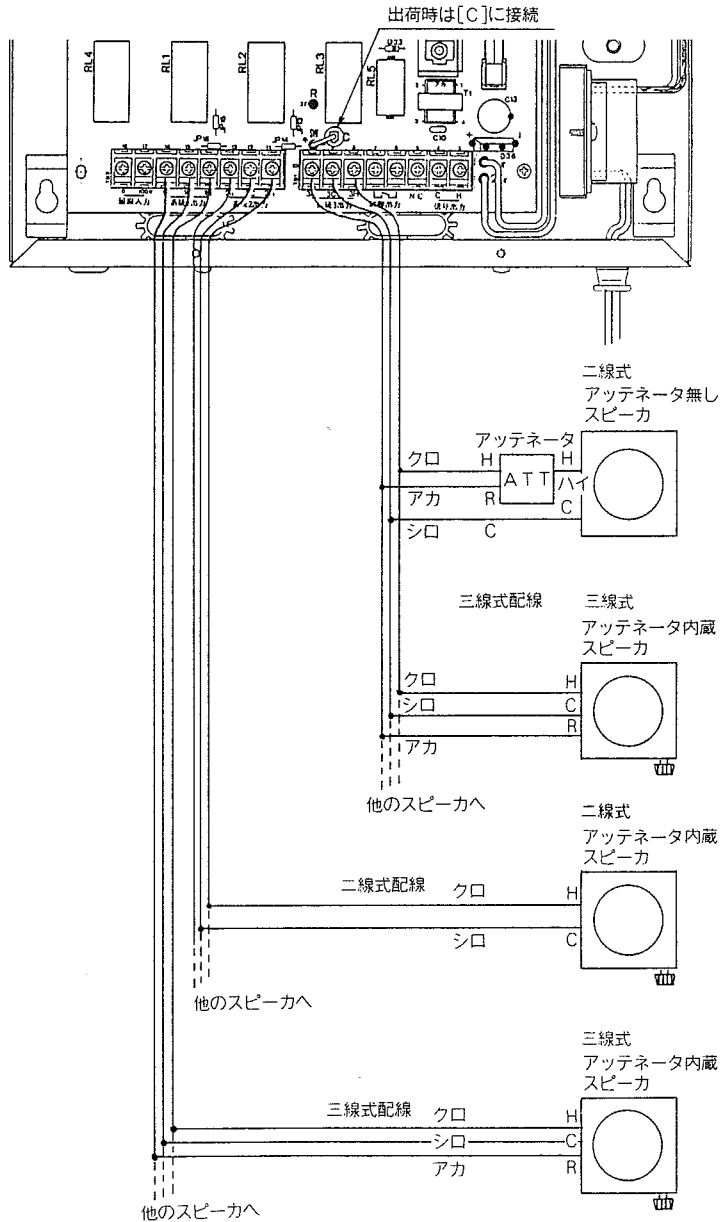


2. 二線式配線

ATTの無いスピーカを使用する場合に用いる配線方法です。

コネクタSWの接続は無関係となり、1. 1項と同じ動作をします。

3. スピーカ接続図(例)



〈工事後の確認〉

工事が終了したら下記の順序で動作確認をしてください。

1. 本機とアンプのACプラグをコンセントに接続してください。
2. 本機の各起動端子の⊕⊖間をショート（ループ）して本機のリレーがカチッという音を出して動作すると共に、アンプが起動することを確認してください。各系統ごとに確認します。
3. 電話機の放送用内線番号を押して本機の起動端子が起動され、アンプが起動することを確認してください。もし起動しない時は主装置コントロールプログラムを確認してください。
4. 電話機から起動してテスト放送を行ないながらアンプの音量調節ツマミを調節して適当な音量にセットしてください。
5. 以上で確認作業は終了しました。
後は、放送用内線番号がどの系統と対応するかを使用者に説明してください。
6. 付属のシールに各々の系統を起動する内線番号と放送区域名を記入し、本機のカバー等に貼付してください。これは後日の点検時の便宜のためです。

〈仕様〉

| | |
|-------------|---|
| 電源電圧 | AC100V±10% 50/60Hz |
| 消費電力 | 定格出力時 7W (8VA) 待機時 1.4W (1.7VA) |
| (信号制御部) | |
| 定格出力 | 77.5mV (-22dBv) |
| 出力インピーダンス | 600Ω |
| 歪率 | 5%以下 (1kHz, 定格出力時) |
| 信号対雑音比 | 50dB以上 |
| 周波数特性 | 100Hz~10kHz (偏差3dB以内, 定格出力時) |
| 待機時減衰量 | 40dB以上 |
| 入力回路数 | 4回路 (系統1, 系統2, 系統3, 一斉) |
| 入力インピーダンス | 10kΩ (不平衡型) |
| 入力感度 | 77.5mV (-22dBv) |
| (スピーカセレクト部) | |
| 出力回路数 | 3回路 (系統1, 系統2, 系統3) |
| 出力回路方式 | 3線式 (出荷時は緊急[R]線を共通[C]線に接続) |
| 出力回路負荷容量 | 3回路の合計で240W以下のこと |
| 入力回路数 | 1回路 |
| 入力回路方式 | 2線式 |
| (制御部) | |
| 起動入力回路数 | 4回路 (系統1, 系統2, 系統3, 一斉) |
| 起動方式 | 無電圧接点方式とDC受電方式 (兼用) |
| 無電圧接点容量 | DC 5V, 2mA以上必要 |
| DC受電電圧 | DC10~30V (有極) |
| 外付アンプ制御方式 | 起動時にループを開成し外付アンプを起動 |
| 制御接点定格負荷 | DC30V, 5A (抵抗負荷) 無極性 AC250V, 5A (抵抗負荷) |
| 外かく材料 | 鋼板 |
| 塗装色調 | クリーム色 (マンセル2.5Y 8/3 近似色) |
| 塗装の種類 | メラミン焼付塗装 |
| 使用温度範囲 | -10°C~+50°C |
| 外形寸法 | 幅254×高さ211×奥行62 (mm) |
| 重量 | 約2.1kg |
| 付属品 | 丸木ネジ 4個 表示シール 1枚 |